

英語英米文学科 3年

留学先：ニュージーランド・ビクトリア大学

留学期間：2024年2月～2024年5月

私は3ヶ月の留学の間に、積極的に取り組んだことが大きくわけて2つある。

1つ目は、積極的に英語を話す機会を増やしたことである。私は今回の留学の目的として、苦手とするスピーキング力とリスニング力を向上したいと思っていた。そのため、授業外でも英語を使うようにした。同じクラスや他のクラスにも日本人が何人かいたが、日本人という環境から離れ、現地の人や同じクラスの友達と一緒にいることで英語しか話せない環境を作るようにした。ニュージーランドに来た当初は、日本人といると何もかもが安心するので、1人行動やクラスメイトと英語で話すことに抵抗があった。しかし、留学生活が数日経過してから、ベトナム人とインド人のクラスメイトと友人になり、留学の半分以上を2人と過ごすようになった。自分を含め3人の共通言語は英語であるため、次第に英語で話す方が楽しく感じようになった。加えて、ホストファミリーとの生活の中でも、晩ごはんの時間にホストマザーと40分近く会話をするなど積極的に英語を話す機会を増やしていった。ホストマザーが語学のアドバイスなどをしてくれたので、とても充実した時間を過ごすことができた。

2つ目は、本を読む習慣と毎日英語で日記を書いたことだ。私たちの授業の一環で薄い洋書を読む課題があった。日本ではあまり本を読むことがなかったが、本を読むことで速読力に加え、語彙力向上にもつなげることができた。私は3ヶ月の間に、計14冊を読むことができ、帰国後も継続して行っている。そして、留学初日から、欠かさず毎日英語での日記を書いていた。最初の数日間は日記の量も200wordsほどであったが、1ヶ月ほど過ぎたあたりから分量も増えていった。自分の語学の不安や今の気持ちなどを言葉で示すことで、後から見返すことができるので、良い経験だと感じた。

最後に、私の留学期間は3ヶ月弱ではあったが、毎日新たな発見をすることもあり、充実した濃密な時間を過ごすことができた。私は大学の授業や授業外でさまざまな価値観を持った人と出会った。しかし、その人たちに共通する点として、他人と争わず、自分という軸を持っている人が多かった。彼らと出会い、自分のmindが変わった。留学前の私は他人の目を気にすることがあり、友達と違う考えを持つことに不安な気持ちを持っていた。現地で授業を受けていて、失敗を恐れる必要はなく、人それぞれ違う意見を持っていることは決して悪いことではないと感じた。これは自分が留学中の目標でもあった、自分の視野を広げることにつながる。私は3ヶ月で失敗を恐れず、クラスメイトに自分の意見を主張することで、自信を持ってクラスなどで発言することができた。これは自分の中で大きな成長だと感じた。

